

「北の農業は温暖化にどう向き合っているか？」  
～北海道ブランド力の向上に向けて～

# 日本農業気象学会 2014年全国大会 in 札幌 公開シンポジウム

対象：学会員、農業関係者、行政関係者、一般市民など  
参加費：入場無料

会場 北海道大学学術交流会館  
札幌市北区北8条西5丁目

▶日時：2014年3月19日(水)15:00～17:30

▶講演者：

**五十嵐 俊成**(北海道立総合研究機構農業研究本部上川農業試験場)  
北海道から日本の米を ～「ゆめぴりか」おいしさの秘密～

**下田 星児**(農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター)  
小麦生産は高温影響を受ける？～北海道は気象応答の最前線～

**藤岡 和博**(JA帯広かわにし)  
十勝川西長いもの取組みと気象的技術の側面

■主催・お問い合わせ／日本農業気象学会2014年全国大会事務局  
農研機構 北海道農業研究センター 廣田知良  
〒062-8555 北海道札幌市豊平区羊ヶ丘1番地  
Tel: 011-857-9234 E-mail: hirota at affrc.go.jp

農業  
気象

日本を代表する食料生産基地である北海道では、冬季積雪厳寒・夏季冷涼の厳しい寒冷気候下で農業が行われています。開拓以来、長い年月をかけて、北海道農業は短い生育期間や冷害を克服し、寒冷気候に適応した大規模農地での栽培体系を確立してきました。一方で、2013年秋に公表されたIPCC第5次報告書で示されているように、近年、**地球温暖化は確実に進行**しています。

北海道でも2010年には開拓以来初めて「高温による」深刻な不作を経験しただけでなく以降直近の2013年まで高温の夏は4年連続しており、さらに冬についても道東地方の土壤凍結深の顕著な減少傾向が続くなど、これまでに経験のない温暖化の影響が農業に現れています。

このように温暖化が進行し、解決を要する課題が次々と現れる中、日本農業気象学会の役割の重要性は益々高まっています。本大会のホストである北海道支部は、この期待に答えるべく2012年に支部60周年記念事業として「北海道の気象と農業（北海道新聞社刊）」を出版し、気象や農業における「北海道の今」の現状と課題、研究成果を多岐に渡って伝えているところです。

さて、北海道の**米**は、かつては“やっかいどう米”と揶揄されていましたが、いまや我が国トップクラスの高品質な品種がいくつも開発され、良質な米の供給地となるに至りました。国内生産量の約7割を占める北海道産**小麦**についても多収の品種が開発されるとともに、これまで輸入に頼っていたパン用小麦でも安定生産が可能な高品質な品種が開発され、我が国の食料自給率の向上へ新たな道を開きました。また、十勝地方の**長いも**のように、台湾や米国にも輸出され、海外に打って出られる高収益な作物に成長しているものもあります。これら北海道農産物の**ブランド力**の向上には、品種開発ばかりではなく、先進的な気象情報の活用や寒地の気象を巧みに活かした栽培管理方法の導入が貢献しています。これまで、お天気任せであった大規模土地利用型農業の現場でも、気象利用技術の進展が著しいことを、シンポジウムの企画者自身、企画立案を通じて日々、学んでいる次第です。

本シンポジウムは、北海道での土地利用型農業における気象に関係した情報利用・栽培技術の最前線の先進的な事例を、研究者や生産現場関係者から学び、さらに北海道の若手気鋭の生産者をコメンテータとして招き、研究と生産現場の双方向のやりとり、かつ**未来志向の農業気象研究や対応策の議論を活発に行うことを目的**に企画しました。研究者や生産者ばかりではなく、行政や市民の方々にも得るところが大きいシンポジウムになると確信しています。

#### 講演者のプロフィール

いがらし としなり  
**五十嵐 俊成(道総研上川農試)**

岩手県盛岡市出身 弘前大学農学部園芸化学科卒業後、北海道立上川農業試験場に勤務し、同研究部栽培環境科長に就任、平成22年4月に北海道立総合研究機構農業研究本部上川農業試験場研究部生産環境グループの主査(栽培環境)を務めています。



しもだ せいじ  
**下田 星児(農研機構北海道農研)**

増毛郡増毛町出身 北海道大学農学部農業工学科卒業後、民間企業、筑波大学大学院博士課程、農研機構・近畿中国四国農業研究センターを経て、平成24年4月より農研機構・北海道農業研究センター芽室研究拠点にて、畑作物の栽培環境に関する調査・研究を行っています。



ふじおか かずひろ  
**藤岡 和博(JA帯広かわにし)**

中川郡池田町出身 帯広畜産大学畜産環境学科卒業後、平成6年4月に帯広市川西農業協同組合農産部農産課に採用、その後別府事業所(現青果部)に配属され、平成24年4月に青果部の生産調整課長を務めています。



#### コメンテーターのプロフィール

ひがしやま あきひと  
**東山 哲智(東山農場)**

夕張郡長沼町出身 大学卒業後農機具会社(MSK農業機械)に、8年勤務後、平成20年に長沼町で親の家業である農家に就農。現在は米・小麦・大豆・にんにくを31ha栽培し、一生懸命頑張ることをモットーに日々生活しています。



おおつか しんたろう  
**大塚 慎太郎(大塚農場)**

石狩郡当別町出身 幼少の頃から祖母に勧められ就農してかれこれ10年経過しました。現在は、53haの農地で水稻・畑作・野菜・施設園芸の栽培・販売、当農産物での加工品販売も行っていきます。

